



新年の御挨拶

静岡県中小企業団体中央会
会長 山崎 亨

新年明けましておめでとうございます。本会会員並びに関係機関の皆様にかかれましては輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年6月より、静岡県中小企業団体中央会第7代会長を拝命し、早6ヶ月が経ちました。微力ではございますが、中小企業組合、中小企業の振興・発展のため、力を尽くす所存であります。

さて、昨年を振り返りますと、元旦に発生し甚大な被害を受けた能登半島地震をはじめ、地球温暖化に起因した集中豪雨など、人々の生活、そして地域経済に多大な影響を及ぼした自然災害が多く発生しました。さらに、南海トラフ巨大地震臨時情報も初めて発表されるなど、自然の脅威と事前対策の重要性を改めて感じた一年となりました。

一方、我々中小企業を取り巻く経営環境は、エネルギー・原材料価格の高騰、賃金の引上げ、様々なコスト上昇分の価格転嫁対策、深刻化する人手不足や環境規制への取組など諸問題が山積する厳しい状況が続いております。加えて、昨年出生率が過去最低となるなど、我が国は急速な少子高齢化による人口減少社会に突入し、市場全体の縮小というかつて経験したことがない変化の激しい時代に入って参りました。

こうした状況の中、中小企業が今後も持続的に成長・発展していくためには、収益力の向上、すなわち「稼ぐ力向上」への取組が必要不可欠であります。しかしながら、経営資源に限りのある中小企業では、その実現に向け制約も多く、大きな課題となっております。

この激動の時代の中で、中小企業がこの難局を乗り越え、成長していくためには、経営資源の不足を補完する中小企業の“共助の組織”である中小企業組合の強い組織力が肝要となります。特に、経営者の先見性や時代の大変革に対する考え方の中に、DX化やスタートアップ的発想、後継者育成など経営基盤の強化をする事が中小企業の生き残る手段の一つと考えます。

本会ではこうした状況を踏まえ、昨年度、組合員の新しい事業の創出、稼ぐ力向上を目指す組合活動を支援するための5か年計画を策定しました。本計画で

は共同事業の新たなビジネスモデルの構築など、中小企業組合のさらなる機能強化を図ることで、中小企業の皆様の稼ぐ力向上に向け、積極的にご支援して参る所存であります。

さて、本年の干支は「乙巳」であります。「乙」は、物事が根付き、しなやかに成長し始める段階といった意味があり、「巳」は、蛇が皮を脱ぎ捨てて生まれ変わるように、復活や再生といった意味があり、新たな変革や成長を遂げる年になると言われております。

我々中小企業がこの大きな時代の節目に於いて、様々な課題を解決し、逆境に打ち勝つためには、成長を表す「巳」の文字の如く、様々な可能性に今一度目を向け、時代に即した成長の実現に努めていく必要があります。

本会と致しましても、役職員一丸となり、会員組合・組合員企業の皆様が大きな飛躍の年を迎えられますよう、新年の決意も新たに業務に邁進することをお誓い申し上げます。

結びに、日本経済を覆う先行きの不透明感が払拭され、本年が皆様にとりまして、希望に溢れる1年となりますよう心よりご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。